

日本大学工学部

# 校友会報

第 41 号

昭和 58 年 3 月 1 日

## 目 次

ごあいさつ(工学部長、校友会長).....	2
港湾の昨今と未来.....	3～5
第2回「母校を訪ねる会」開催.....	6～7
校友短信.....	7～8
キャンパスミニメモ.....	8
同窓会だより.....	9
アメリカだより.....	10
隣の中国を訪問して.....	11
総会通知、教務課だより、事務局だより	12



「雪の学内風景……昭和58年1月」



## ごあいさつ

日本大学工学部長  
廣川友雄

昭和58年度は郡山学園開設以来37年目に当たります。その間の卒業生諸君の社会における活躍は目覚ましいものがあり、それぞれの分野で指導的役割を果し、また、その分野の進展に大きな力を奮われた方も多数おられるのであります。

現在、21,965名の校友に本年度も新たに千余名の卒業生が加わります。これらの新人に対し、その育成に心掛けて頂きたく期待致しております。

さて、工学部は本年度も入学試験の時期を迎えました。昨年行なわれました日大付属高校以外からの推薦入学に際しては、例年より多数の応募者があり、その中から不合格者を決めるのに苦労いたしました。また、付属高校からの推薦入学においても同様であり、2月に行なわれる入学試験に対する志願者も目下受付中ですが、これも例年より出足がよい様子です。

例年全国からこのような志願者が集まることは、卒業生諸君の技術界における活躍がその原因の主要なものとなっていると考えております。今後の御健闘をごの意味からも願う次第です。

最近、1年を単位に外国の大学に留学して、研究に、或いは世界の同業研究者との交流に成果を挙げておられる若い先生方が多くなりました。現在も2名の先生が海外におられます。その他、国際学会で活躍しておられる先生も多く、毎年約40名の先生が、また大学院生が海外に出掛けています。

御存知のように日本の技術界は多くの分野で世界をリードしています。このリードということは単に優れているというだけでなく、指導するということも含まれており、後者の意味の活動がもっと意識的に行なわれないと、優れていることだけでは、時には憎しみに転化しないとも限りません。技術の先端におられる校友の諸君に特に望みたい所です。今母校で海外との交流を深めようとしているのは、このようなことに対する先見性を学生の時代から養っておかないと、やがて来る21世紀において活躍する学生に対する教育にぬかりがはなならないと思うからであります。

昨秋も北桜祭に当っては、「母校を訪ねる会」のさそいによって第4~7回の卒業生の諸君が来校致しました。これら古い卒業生の中には卒業後初めて母校を訪ねる者もあり、在学生の奏するプラスバンドも含めて、母校の姿に満足の様子でした。来年は次の年代の諸君の訪問されることを楽しみにしております。

(日本大学教授、工学部校友会顧問)



## ごあいさつ

日本大学工学部校友会長  
武田仁幸

昭和58年の始めにあたり、会員諸兄に「あけましておめでとうございます。」を申し上げます。今年のお正月は天候にも恵まれまして、陽春と言う言葉そのものの、麗かな、非常に気持の良い日々を過ごされたことだと思います。

今年の干支は癸亥でございます。十干においても十二支におきましても最後にかぞえ、60年に1回めぐる年でもございます。この癸亥と言う年は大変問題の多い年だと昔から言われており、60年前は我が國に於いては東京が一瞬にして地獄と化しました関東大震災、文久3年には2度の大凶作であったと記されております。一月中の異常に暖い気候を見ましても今年の夏は冷夏が予想され、又、不作ではないかと思われてなりません。景気も上半期は悪いが、下半期は良くなると経済評論家は予想をしておりますが、何も良くなる要素となく、雨雲から青空が見えるのは、いつの事であります。

キッシンジャー元米国国務長官やノーベル賞を受賞しました米国の経済学者氏などはNHKの記者等の対談の中で、大変日本の将来は明るく、2、3年後には米国に次いで第2位の経済国になるような予想をしておりました。外部から見れば明るく見え、内部からの我々はどう判断したら良いものでしょうか。新春放談ですから、きっと、中曾根総理大臣訪米と日本の国民性に期待するものが大きく意味していると思います。

この不況の中にも明るい希望の光を作り出すのは、我々技術者であると信じます。現在、全日本大学の校友は全国に50数万人を有し、我々、工学部校友も2万数千人が日本だけでなく、世界各国で活躍中であります。この諸兄が親睦を計りながら、一致団結し、各々の職場に於いて創意工夫と切磋琢磨し、技術革新に努力されますことを切に希望するものであります。

『週刊ダイヤモンド』新春特別号の新春提言の項目の中で、孟子に「恒産なければ恒心なし」と言う周知の言葉がある。とあり、興味を持ち、広辞苑を開いてみると次の様に書かれてある。『定まった財産や生業のない人は定まった正しい心がない。経済の道徳との密接な関係を説いた句』とある。又、特別号の中でも人間は若い時に働いて、老後は自分の蓄積で生活して泰然と死ぬのが理想だと説き、人生70才になって勲章と年金を気にしていくは、とてもハッピーな老後は期待出来ないと結んでいます。会員諸兄、若い時に汗を流し、老いて涙を流さない人生であることを望むものである。昭和58年度の通常総会を新装なった日本大学会館で開催しますので特に東京在住の会員に御協力を願うとする次第であります。

(土木工学科3回卒、東和工業株)

# 港湾の昨今と未来

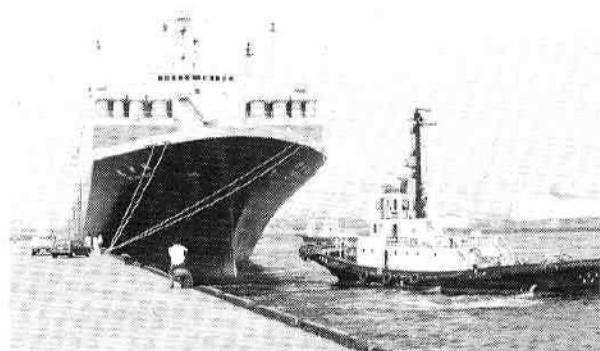
千葉県港湾建設課課長 根 本 亮



## ■まえがき

56年、「母校を訪ねる会」がありました。残念ながら仕事の関係で出席することができませんでした。しかし、

57年7月に開かれた、新田前教授の退官及び喜寿の御祝に久しぶりに郡山を訪ねることが出来ました。会の始まる前の僅かな時間でしたが、なつかしい母校を訪ね、その折に土木工学科の西村助教授にお会いすることが出来、最近の学部内のこと、現在の学生気質、又我々卒業生の仕事の内容等について意見を交換することが出来ました。話がたまたま、私が港湾行政をやっていることに及び、何か港湾のことについて、校友会報に書いてほしい旨依頼を受けました。日頃母校に接する機会もなく、いろいろお世話をなった母校にも、先輩として何等役立つ事もなし得ず。心苦しく思っておりましたので、罪ほろぼしの意味から引き受けました。引き受けたのは良いのですが後から考えましたら、むずかしい港湾技術のことを書いても校友全般の方々になじめませんので、一般に皆さん知っているような事を書いて、なんとか責任を果したいと思います。



車を輸出する自動車専用船（千葉港）

## ■港とくらし

港と云えば、航空機がこのように発達しない以前は海外旅行の玄関口であり、古くはブラジル移民の人達の祖国の別離の場でありました。又明治以降、狭い国土に多くの国民を維持するために、原料を輸入し、製品を輸出するパターンで加工貿易をしていましたが、その陸海の第一の接点が港と云えましょう。

戦後も資源のない我が国のこのパターンは変らず、我が国の工業が戦前の生糸の輸出から織物に変り、や

がて高度成長政策と共に、鉄鋼、自動車、造船、最近では電子機器等、多彩な品物をしかも多量に取扱うようになりました。この結果、私共は何一つ資源がないにもか、わらず、豊かな生活を享受出来るようになりました。港湾は今述べたことと密接な関係で発展して来ています。我が国では、輸出も輸入も、港湾無視では不可能であり、日本の経済、国防上からも、又国民生活を支える上からも、大切な施設であります。もし整備された港湾施設が、なんらかの原因で、例えば大地震等で破壊された場合、日本、いや現在では、世界の経済活動に大きな支障を来たす事は明白であります。今、日本全体で、港湾と名のつくものは北は北海道から南は沖縄まで、1,177港あります。このうち外国貿易に關係のある港湾法で云う、重要港湾は119あり、日夜経済活動を続けています。例えば昨年の貿易量は、約8億トンありました。このうち輸入が6億トン、輸出が2億トンであります。このなかには私共日常の生活に欠くことの出来ないものも大量にあります。ご婦人方を美しくしてくれるファッショント、この衣料原料は一昔前までは、日本が輸出王国でありましたが、現在では、中国、韓国、ブラジル等から入っています。羊毛も100%輸入であり、アメリカ、ソ連、オーストラリア、ニュージーランド等から、合成纖維のナイロン、ポリエステル等に使用される原料のナフサもアラブ等中近東産油諸国から石油中間製品として入って来ているのです。

又、私達が毎日の食卓や外食で無頓着に食べている食糧品の大多数、そば、てんぷら、すし、うなぎまで材料や原料はほとんど外国から入って来ています。世界のエビやふぐが日本に大集合という具合であります。更に住宅産業にとっても、木材の輸入量は莫大な量であります。木材の全需要量の70%相当が港から入っていると云われております。木材は北米、カナダの北洋材とインドネシア、マレーシア等の南洋材があり、最近日本向け木材の量が多くなり、インドネシアの森林が禿山となり、災害や環境の面で問題になる程大量に入っています。まさにボルネオの森が日本の団地に化けるという現象であります。

この外、大事な事を忘れていました。エネルギーの輸入であります。我が国の経済社会の活動源になっているエネルギー、石油100%、LNG(液化天然ガス)、LPG(液化プロパンガス)、石炭も高い比率で海外に頼っています。つまり私共は豊かな繁栄をしているかに見えますが、なんと脆弱な基盤にのっているか、もう一度港湾サイドから見直していたいと思います。

す。このような莫大な物流を扱う港湾も一朝一夕に整備されたのではありません。長い長い歴史のしがらみがあると思います。我が国、又世界的な物流の増加に従って整備されてきました。

我が国においては、戦後10数年を経た昭和30年代の前半から、ようやく港湾の整備が本格的に再開されると云っても過言ではありません。先ず、国内貿易用の水深の比較的浅い埠頭、岩壁が整備され、順次外国貿易用の水深10mとか12mの岩壁が整備されるようになりました。更に高度成長時代、又世界的なコンテナリゼーション化に伴い、神戸、横浜、東京、名古屋等でコンテナ船用の大規模な埠頭が建設され現在に至っています。これと併行して港湾荷役機械の開発も見逃すことは出来ません。大型荷役機器の導入により、港湾機能は飛躍的に向上いたしました。このように港湾も他の多くの施設同様その時代、時代の要請と課題をふまえて発展して参りました。

こゝで宣伝傍々私の関係しております、千葉港の概略を紹介したいと思いますので、しばらくご辛抱下さい。

千葉港は、鎌倉時代から戦前まで東京、横浜方面の食糧、薪炭等の取引港として栄えて来ましたが、戦後昭和25年頃から、本格的に港湾の整備に着手しました。千葉県の政策として、一次産業県からの脱皮をめざすべく、企業誘致を計画いたしました。企業を誘致し、税収をはかり、その「あがり」で他の施設を整備する、今も昔も変りがありません。この政策が昭和30年前半からの所得倍増政策とうまくマッチして「神武」「岩戸景気」などの好景気に支えられ、千葉港においても広大な公有水面の埋立造成が行なわれ、そこに我が国の代表的な企業である、重化学工業、鉄鋼産業、又石油精製等の企業誘致が見事成功し、こゝに一大臨海工業地帯が出来たのです。これらの工場の操業の進展に伴って取扱い貨物量も年々増大し、品目も多種にわたるようになって来ましたし、それにつれ港湾施設も大型化して参りました。一方では、土木工学のめざましい進歩、軟弱地盤に対する各種工法の開発、大型土木機械の導入等があげられましょう。

こゝで企業の専用施設がありますが2、3記してみたいと思います。先ず揚油桟橋であるシーパースがあります。シーパースは千葉港の沖合い、水深25m位のところに、延長470m、巾54mのドルフィンタイプの桟橋であり、25万トンタンカーを2隻同時に着桟出来、こゝから海底パイプラインで製油所に配油する施設であります。中近東から約1ヶ月を要して運搬して来る原油も、約24時間位で空船になってしまう施設であり構造的にも大口径の鋼管杭約255本を海底30~40m下の支持層まで打込んであります。施工時には海上からの大型杭打船で施工した訳であります。この外変わった施設として、LNGバースもあります。オイルショック以降、石油からLNG、石炭等に転換をしておりますが、このLNGも遠くブルネイ等から特殊なLNG

船で天然ガスをマイナス160℃に冷却し、液化して運搬し、揚波する桟橋であります。このような大規模港湾施設も、私共母校で港湾工学を学んだ頃には考えられなかつたことであります。施工材料の改良、施工技術の飛躍的向上等があつて他構造物同様に大型港湾構造物も建設出来るようになつたのであります。

千葉港には、このような施設が企業の岸壁277バース、公共の貨物を取扱う大型バースは83あります。又新たに土地を造成した面積は約11,000ha、こゝで活動している企業は1,400社程あります。年間の工場出荷額は6兆円ほどになっており、昭和55年の港湾取扱貨物量は、1億5千万トン程になり、神戸港をしのぎまして日本一になった実績があります。

しかし千葉港開発の背景が埋立造成を行い、企業誘致からスタートしましたから、公共貨物取扱量が少く工業港の色彩が強いため、東京港や横浜港にくらべ商港機能が非常に劣っております。又港湾が企業に専有されているため、市民との結びつきがどうしてもうすぐ、港と市民のコミュニケーションが無いのが悩みであります。このため、私共は公共埠頭を整備し、商港機能を高め、千葉県内や北関東圏（栃木、群馬県等）から発生する輸出用貨物がつゝなくアメリカやヨーロッパに船出出来るよう大型外国貿易バースを整備したいと考えておるところです。特に千葉港でも、船橋地区は常磐高速道や東北縦貫道の整備によってヒンターランドも広域になって来ましたので、港湾施設の整備にとってはポテンシャルの高いところでありますから、是非水深12m位、3万トン級の貨物船が自由に出入出来得る岸壁、又それに附帯する荷さばき地や貨物を一時ストップしておく野積場等整備していきたいと考えております。



埋立を行い新たに埠頭を整備する（千葉港船橋地区）

#### ■ これからの港

港湾は、港湾物流の海陸の接点の役をはたしておりますが、最近の港湾に求められるのは、港湾施設と云うハードな面のみでは市民の方々は満足しない時代に

なって来ましたし、私共関係者も限りある空間を多面的に使用する工夫努力が必要であります。市民と港湾のつながり、市民の親水化（海づくり施設等）の要望、又家庭、工場から発生する廃棄物の処理、これらを港湾行政のなかで受け入れる時代になってきました。

千葉港においても、これらに対処して廃棄物処理場を建設したり、臨港公園や人工海浜を整備しております。人工海浜は埋立てによって失われた砂浜を、人工的に砂を運搬して作るもので、沿岸流によって流出しないようジェッティーを沖の方向に200～300m位出し、粒径の荒い砂を遠くから運搬し、沖合に向って巾200～300mにわたって人工砂浜をつくるもので、すでに約5.4kmが完成し、現在1.6kmについて工事中であります。これに要した砂の量は約700万m<sup>3</sup>を運搬しました。完成時には約140haの人工砂浜が出来ることになります。市民の方々は子供達と喜んで水に親しんでおります。



突堤を出し人工海浜を整備した（千葉港内）

次に港湾の再開発について若干述べてみたいと思います。人間が造ったものは、長い年月使用しておればその時代に適合しない、又使いにくいものも出て来ます。港湾施設も又しかりであります。海側からの要請のみではありません。都市サイドからも又いろいろの要請もあります。この要請に答えるのが港湾の再開発だろうと思います。例えば横浜港は過去に華々しく活躍した高島埠頭前面を埋立てて、新たに港湾都市にふさわしい港の再開発を計画しています。これは21世紀に向っての「みなど未来21」と云うものであります。そこでは国際的な業務と文化を中心とした街とか都心に融合した港の整備とか、この横浜駅前の地域の特性を生かして、又「ミナト横浜」とその歴史的蓄積を生かして国際色豊かな街づくりをしようとするものであります。

千葉県においても規模ははるかに小さいですが、昭和の初めに軍がつくりました本更津港を再整備し、各機能を分担させ、使い良い港にすべく検討中であります。このような事例は全国的にどんどん多くなってゆくことでしょう。

最後に運輸省等で研究している冲合人工島、又は沖合港湾構想について述べてみます。これは海洋空間の利用状況、とりわけ瀬戸内海、大阪湾、東京湾等の利用状況が非常に進んで来ており、浅海区域が過密のため、利用空間が少くなっている必然性から出て来たものであります。人工島については、古くからある訳で、東京の夢の島、横浜の大里埠頭、又神戸港の六甲アイランド等事例は多くありますが、今後は湾内でなく、外洋、しかも大水深のところに、このような人工島を構築するものであります。このような人工島は火力発電所（すでに和歌山において実施中）や石油備蓄、配分基地、海上空港（新大阪国際空港構想）等であります。したがって今後は、海洋土木、海洋建築学の領域の活躍の場が多く出て来ることであります。

#### ■あとがき

7月に原稿の依頼を受け、時間はたっぷりあったのですが、締切が近づくにつれ、多忙をきわめ、いささかあわてて雑文で紙面を汚し申し訳なく思います。

思いおこしますと、私共が兵舎を改造し、すき間風が容赦なく入って来る寒い教室で学び卒業してからまもなく30年近くになります。この30年間の社会の急激な変化は何人も予想する事が出来なかったと思います。私共が社会に出る頃は、今とは全然違った不景気がありました。朝鮮動乱の後の経済ショックにより求人など皆無であり、個人が最大の努力をして必死になって職を得た様に感じられます。従ってその後の社会において自力で切り拓き、各界でご活躍の校友の消息を知る時、非常に感銘を受けるものであります。最近は経済の落ち込み、行革等の関連又大卒者の絶対量の多さから就職も大変だろうと思います。事実、私共の職場にも後輩がここ数年来一人も入って来ていません。誠にさみしいかぎりであります。他大学の方々と競争しない限り進歩はないと感じます。今後も技術はすべての分野でますます日進月歩することであります。後輩の方々頑張って下さい。

（土木工学科3回卒）

#### 58年度総会・懇親会

東京・市ヶ谷・日大会館で開催

58年4月23日(土) 午後2時より

詳細は12ページにあります。

# 第2回「母校を訪ねる会」を開催

昨年の2倍増の60余名が出席

56年11月に「第1回母校を訪ねる会」を、工学部と校友会の共催で開いたところ、その反響が大変大きかったので、57年10月23日にその第2回を開いた。

対象は、4回～7回生でしたが、専門部土木2回生も参加され、総勢60余名が参集した。

懇談会の途中に、ドシャ降りの雷雨などに見舞われ



## 「32年めのわが母校」

川越 正

去る10月23日、磐梯熱海に於て、同窓会が催され恩師の堤好文教授（現、理工学部）を始めながら、出席者18名で32年振りに旧交を暖め合った。

我々一同は、昭和26年卒であり、同輩の中には既に第一線を退職して第2の人生で活躍中の人、或いは目下思索中の人と、さまざまな夢を抱いている、ところであった。

家庭的な話としては子供のこと、孫のことなど、尽きることなく話に花が咲き時間の過ぎるのも忘れて大いに語らい、楽しい思い出の深い一夜であった。

翌24日は、第2回「母校を訪ねる会」に、お招き戴いて、お互に胸を踊らせ、母校に急行。……

途中金山橋にかかると、阿武隈川の清流は昔と変らず、河畔での測量実習を学んだ思い出に耽りながら校門に向った。

校内にはいると、時折も、北桜祭で学園は一般参観者も交わり賑かであった。

先ず驚嘆の一言につきたのは……

工学部広報、校友会報等により、或る程度の認識はもっていた心算であったが、学校の様相が一変して立派な充実した建物になっていたことである。

私のイメージには、昔の木造校舎、アカシヤの木立ちと、広大な草原ばかりだったので暫らくは往時が去来し感無量であった。

たり、それぞれの思いにひたることができた。

全員昼食の後、片山将道学部次長から全般的な話を聞き武田会長が挨拶、参会者を代表して佐藤利紀君（土4回卒）が挨拶、学内のスライドを映写してもらい、しばし今昔の感に駆られた。吹奏楽部のドリル演奏を見聞し、資料室などの学内を自由に見物。25年前の想い出にふけった。雨あがりの校庭で記念撮影の後、会場を荒池の研修会館に移して懇親会を開いた。

これは今回初めての試みであったが、30名以上の一般校友が参加し、恩師や同期生を含み、昔話や現在の話に花が咲いた。

宴たけなわな頃に、全員で校歌を合唱、高野（化3回）と山崎（建5回青森市役所）両君が、北心寮歌を齊唱して幕を閉じた。

次回は、8回～10回生に声をかける予定ですので、該当の方はお互いに今から準備をしていて下さい。

記念館の陳列物入口のところに、昔を偲ぶ箱火鉢、測量実習の写真と、卒業記念写真があり、同期生の中には雨靴を履いた姿も見られ、感慨一人であった。特に箱火鉢の思い出としては、当時の悪友が椅子や建物の壁板をはずし、薪のかわりに、燃やしていたことなどが、昨今では考えられない思い出が甦ってきて、なつかしさで一杯となった。

最後に学生諸君による勇壮なプラスバンドによる歓迎吹奏は一段と力強く、すばらしいものであった。

懇親会における学部当局、又諸先生方の並々ならぬ御努力と校友会長との緊密な連携による母校発展への熱意に接して、我々も惜しみなく寄与すべき所存であることを再認識し、重ねて厚くお礼申し上げる次第です。（土木工学科専門部2回卒）

世紀東急工業九州営業所

## 「訪ねる会に出席して」

佐藤利紀

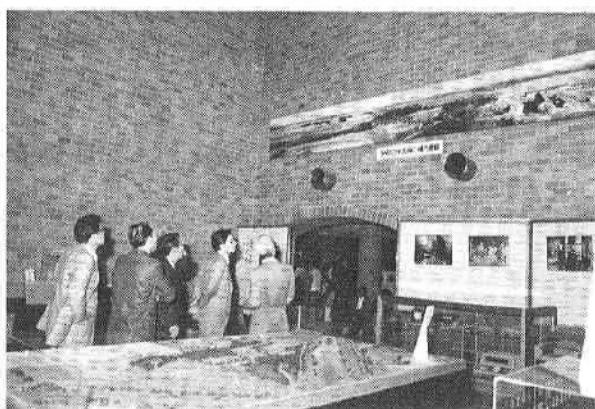
若き血潮がたぎり、青春を謳歌した学舎へ、卒業後26年目で訪れ、入学式から卒業式までのことが、走馬灯のように思い出され、懐しさが身にしみ、恩師・同期生の顔も、若き日の姿しか描くことができません。そんな想いにかられました。

歴史のいたずらと言うべきか、当時の面影がなく、すべて巨大な学舎に変わっていることに、驚きを感じませんでした。懇親会では先生がたや先輩・同期生と

26年ぶりに対面し、心からうれしく、言葉にあらわすことができない気持であり、又、参加者代表として挨拶を申し上げる榮誉を授かり、まことに驚異でもあり、感激でいっぱいありました。

今回の催しには学部当局、校友会長はじめ役員の方々の大変なご苦労があったことと思います。母校と校友会のますますの発展をお祈り申し上げます。

(土木工学科4回卒、福島市水道局拡張課長)



## 「25年の歳月」

山岸 功一

光陰矢の如しと云われるが、第2回母校を訪ねる会に参加しまして立派に充実した母校のキャンパスを見し、只々驚きの一言でした。

25年前の野原にバラックがあったとは考えられない様な変貌がありました。

第5回卒業生の参加が少ないのでにはがっかりしましたが、武田仁幸会長、高野操先輩の25年前と全く変わらない人格の高さと優しさに目頭をおさえたくなる様な感激にひたりました。

記念館に立ち寄り我々が在校した当時の写真やパノラマを見て、ようやく当時の面影がしのばれました。その後研修会館での懇親会に参加したわけですが、そこにはまたなつかしい昔の匂いが一ぱいでした。土木4回卒のTさんやKさんが25年の世間の荒波にもまれようやく丸味をおびた童顔を見せておられましたが、それも楽しい一こまでありました。事務局の苦労は多しながらもせめて10年に1回位はこの様な機会をぜひ

再度計画して戴きたいと痛感した次第です。

最後に雪深い新潟の十日町市より一言、「第5回卒業生よ母校のキャンパスで再会しようではありませんか。」(建築学科5回卒、山岸建築設計事務所)

## 「母校を訪ねる会」

小林 秀一

第2回の母校を訪ねる会に参加させて貰い、有意義な一日を過ごすことができました。

特にプラスバンド部による卒業生に対する歓迎の演奏には、自分の過去を振り返っている間に胸が締め付けられ、目頭が熱くなり大変に感激させられました。

私は昭和34年に卒業して23年間も大学に勤めている関係上、いわば毎日、母校を訪ねているわけですが、あらためて、同級生と一緒に訪ねると感慨無量といった気持になります。

縁あって大学に残して貰い、学生の上に立つ身となり、以来、学生のために誠心誠意を尽くして来たかと云う反省と、大切な青年期を育ててくれた母校に対して自分は何を成しえたかと云う自問、また、物資の少ない時代に大学を卒業出来て、現在も元気で仕合せな生活が維持出来ると云う喜びと感謝の念で一杯でした。

この感謝の気持を校友会を通じて、母校に対して何らかの記念事業は如何がかと母校を訪ねる会の人として考えている次第です。

(土木工学科7回卒、日本大学工学部)



〔写真説明〕前ページ：雨あがりの中庭で全員記念撮影。左上：30周年記念館の資料展示室で当時をしのぶ  
右下：研修会館での懇親会にて。

# 校 友 短 信

〔校友会の事務局へのお便りや、連絡などから  
無断で掲載いたしました。ご了承下さい。  
8ページ下段に続く。〕

## 土木工学科

◇藤原正臣（6回卒、静岡県藤枝土木事務所）

8月1～2日の10号台風、9月11～12日の18号台風により、管内の公共土木施設に33億円余りの被害が発生、この作業で多忙を極めております。

(57. 10. 9受)

◇神田哲夫（6回卒、世紀東急工業株東関東支店副支店長）

57年5月に世紀建設と東急道路が合併して新会社になりました。

(57. 10. 5受)

# CAMPUS

mini

MEMO

## ◆広川学部長が日本大学総長の代理・代行者に

学校法人日本大学寄附行為第6条第3項に基づく  
総長の代理・代行者について、12月17日開催の学部  
長会議及び理事会において、下記の通り決定した。

日本大学総長の代理・代行者

工学部長 広川友雄

(日本大学学報第286号から転載)

### (注) 第6条第3項

総長に事故があるとき、または欠けたときは、  
あらかじめ学部長の互選によって定められた者  
がその職務を代理し、または代行する。

## ◆小林巖先生御逝去

元一般教育科教授の小林巖先生は、昭和57年10月7  
日、仙台市の病院で逝去されました。享年97才でした。  
先生は昭和23年から郡山で教鞭をとられ、39年  
からは非常勤講師として、55年の95才までつとめられました。ご冥福をお祈り致します。

## ◆石田事務局長が郡山市教育功労者で表彰

石田昭二事務局長は、57年11月3日に、郡山市から  
教育功労者（保健体育）の表彰を受けた。

柔道の普及と郡山市柔道会の充実発展に尽力され  
青少年・学生・社会人の指導育成につとめ、技術の  
向上をはかるなど、郡山市体育の振興に貢献したの  
が認められたわけです。

## 建築学科

### ◇山田啓介（6回卒、権・建築設計事務所）

地方都市の設計事務所は仕事量が少なく大変です。  
8月はトルコ、シリア、ヨルダンの約6,600キロを  
約1ヵ月かけて遺跡見学をしてきました。

(57. 10. 5受)

### ◇佐藤哲男（7回卒、(株)大林組東京本社）

上野アメ横センタービル新築工事の工事事務所長  
として勤務、58年1月末に完成の予定です。

(57. 9. 29受)

## 機械工学科

### ◇橋本 尚（4回卒、日本原子力研究所、東海研究所）

高温工学関係の仕事で、高温ガス炉（多目的）…  
…1000°C目標の原子炉開発にたずきわっています。  
また、原子力用ロボットの利用検討グループに参加  
しています。

(57. 9. 30受)

## ◆新田元教授が写真集を発刊

土木工学科の元教授の新田亮先生は、昭和57年6  
月に、「侵食海岸（写真集）」（解説付37cm×26cm）  
を発刊しました。カラー写真（6ヶ月）130枚の写真  
集で、作者は「侵食による海岸の変化を研究する人、  
海岸利用と環境保全に関心ある人、海をこよなく愛  
する人々などに見てもらいたい」と話しています。



### 噂のページ

### ◇野田吉弘君（化学19回卒）

卒業後、広島大学大学院博士課程に入学、その後  
東北大学非水溶液化学研究所トロポイド反応化学研  
究室で研究生活を続けていたが、その成果が実り、  
57年12月に東北大学から「 $\alpha$ 置換 $\beta$ -ビニルブテノ  
リドによるカルボニル化合物のアヌレーションと天  
然物合成への利用」の論文で、理学博士の学位を授  
与された。

## 電気工学科

### ◇萬年正治（6回卒、日黒電波測器㈱）

中小企業とは言え、計測業界のトップを行く会社  
に入社して24年、近年は発展途上国への技術交流等  
で、年の3分の1は海外生活です。

(57. 9. 18受)

## 工業化学科

### ◇館川 裕（6回卒、シェル興産㈱石炭・金属部長）

シェルグループの石炭会議に出席するため9月18  
日成田出発、英国へ。代替燃料としての石炭をどう  
利用し国際貿易の場に位置づけるかがテーマです。

(57. 9. 16受)

### ◇中山達雄（6回卒、富士興産㈱研究開発室長）

小名浜での製油所建設後は、福島へと期待してい  
ましたが、石油ショックで延期になり残念です。野  
球OB会で訪郡の予定です。

(57. 9. 30受)

# 同窓会だより

## 土木12回卒同期会

中井健正・岩崎 昭

57年7月9日夜、郡山の研修会館で開催。新田・杉内・小林の3先生と同期生17人が集まりました。

昔の思い出、仕事や家族の話と話は盡きず、翌朝、朝一番で職場へ出勤する人、下宿や友人を訪ねる人、有志でゴルフをする人等、それぞれに青春の余韻の残る懐かしの郡山を楽しんで、再び人生の戦場へと戻つて行きました。(中井[旧姓井上]：日鉄不動産 岩崎：京成電鉄)

## 山口アカシヤ会

山田 啓介

山口アカシヤ会は57年7月18日、山口市で開催、20名が出席した。校友会本部からは評議員の橋本寛先生が見えられ、遠い郡山の学園の状況についての説明を受けて感激しました。

(建築学科第6回卒、権・建築設計事務所)



## 香川県あかしや会第2回総会

北岡 保之

57年7月30日、高松市で開催し、20名が出席。特に今回は、校友会会长の武田仁幸先輩もみえられ、今後同窓生としての強い絆を作り出すために、なお一層の努力をする覚悟です。写真は56年6月のものです。

(工業化学科16回卒、高松市役所都市開発部)



## 土木6回同級会

秦 裕

57年10月23日、一泊で第2回同級会を郡山で開催しました。木村・杉内両先生を迎える、北は北海道湧別、

南は大阪から30名が集い、懐かしく、そして楽しい一夜を過ぎました。

懇談は「今何をしているか」より「学生時代どう過したか」を中心で、想い出話に花が咲かせました。

私達の入学時は本造校舎で、実験設備も乏しく、翌日、母校を訪ねて見せていただいた水理実験の設備などはすばらしいもので目を見張りました。工学部の益々の発展と校友諸兄のご活躍を祈ってやみません。

(郡山市水道局)



## 機械6回卒同級会

小池 武志

「あかしやファイト会」は今回が8回目で、57年10月23日、郡山で一泊して行ないました。当日、大宮駅に13名が集まり、新幹線で75分で郡山着。学部祭で賑う学部食堂で昼食、一色・菅野両先生の案内で実験室等を見学。充実した実験設備に「すごいなあ」の声ばかり……。

懇親会は東京組にその他の人々も集まり外木・一色両先生の出席を願い、市内で深夜まで良き学生時代の話に花が咲き、楽しい一夜を過した。

翌24日は「母校を訪れる会」に出席、学部教職員や校友会役員の方々の周到なもてなしに感謝。在学生が良き環境の中で充実した施設を充分に生かし、立派な社会人に巣立つことを願いながら学園を後にした。

(三面印刷株)



## アメリカ便り (内容は長文でしたが、紙面の都合上事務局で一部削愛させていただきました。)

### 沢田 達孝

早や米国に来て11年目になります。ここ数年間ロサンゼルス地域で、いろいろな建築事務所、構造事務所、工業化学会社設計事務所等に勤めてきました。一昨年、C. F. BRAON という約3,000人ぐらいい働いているENGINEEG OFFICE に移りました。親会社はSANTA FE INTERNATIONAL で世界中の海・陸から石油を求める掘削会社です。

日本と違って、大学卒業後仕事を見つけることがなかなか大変なことです。仕事の経験が充分にできますと、良い仕事、良いINCOMEを求めて会社を去ることはごく普通に行います。仕事のできる人は高年齢層の人でも良いPositionに入れます。ENGINEEG 会社は平均年令がとても高いと思います。大・小に関係なく会社は大きな仕事が入るとすぐに人を入れ、仕事が完了すると、できない若い人からLAY OFF にされるしくみです。ですから会社は人を教育しません。できる人を金で引っぱるのです。

仕事は、中近東関係とヨーロッパ地域のOIL PLANT のENGINEEGを行っています。私の仕事はSTRUCTURAL DESIGNER(図面作成)です。平均INCOMEは2,000ドルから3,000ドル内外です。STRUCTURAL ENGINEER(構造計算)をする人は3,000ドル内外で1時間20ドルを取ります。米国の社会において、これらは平均的にHIGH INCOMEの中に入ります。

### 小山内 博範

皆様いかがお過しですか。さて、小生アメリカに来て、そろそろ6年目、現在は、ミネソタ州の電力会社のCo-operative Power Associationで働いております。職はPower Supply Planning Engineer, 主なTaskはPower Production Analysis, System Analysis, Computer Programmingというところ。多くはSimulation Programを駆使してのシステム分析です。

アメリカの電力界はInvestor Owned System, Municipal System, Rural Electric Co-operative System, Federal State & District Systemに大別されておりますが、私の働いている会社は Rural Electric Co-operative Systemに属し、ノースダコタ州のCoal Fieldに発電所を持っており、そこで生産された電力をD. C. Lineで約470マイル離れたミネアポリスのD. C. - A. C. Converter Stationに送り、そこからA. C. Systemに電力を供給しています。D. C. Systemは長距離大電力のTransferに最適というのが、一般の意見です。

このノースダコタには、多数の巨大な発電所があり中・北西部一帯に電力を供給しており、ワイオミング州のコールと共に、今の調子でdemandが増えて、約400年はエネルギーを供給できると予想されております。

小生はミネソタとダコタにしか住んだことがないの

太平洋側の事務所では、アジア系中東系の人々が多く勤めています。特に構造計算関係では、インド人や中国人が占め、図面作成では、フィリピン人、ベトナム人が多いようです。我々のSECTION 20人中で米国生れは3人のみです。SECTION LEADERは日系2世です。白人の高年齢層のみ目に入り、若い白人はこのような仕事をしたくないのか、またはできないのか、私の理解できない一つです。

仕事時間は明確で残業はしません。我社のWEEK ENDは2日半あります。上下の関係ですが、日本のように上役にペコペコすることはありません。自分の位置を見下さないように心がけて仕事をすることが大切です。仕事終了後の社員の付き合いなどはありません。仕事内容はINCOMEによってことなり、上役より難かしい仕事と言うことはありません。

これまでの私の仕事の経験で、仕事や人間関係で悩んだことは一度もありません。この国に来て、長く生きられそうです。それは仕事の上、子供の教育のこと親類の少ないとなどからです。

とてもまとまりのない手紙をさし上げます。当地で日本からの校友会報が手に入る事は、今は亡き母から手紙を受け取ったと同じようにうれしい気持で読ませていただいています。

(建築学科14回卒) (57. 9. 25受)

で小生の話からアメリカ全体を想像してもらつては困りますが、アメリカは日本のように健全な所ではありません。常に何事かに備えていなくてはいけなく、気を抜くことができないのが小生の見解です。仕事にしても、日本のように終身職という考えがなく、いい機会があったら移る、それに経済状態が悪化するといつ失業するかわからないというのが一般的です。開拓時代と同じように自分以外に頼るものはないと頭にいつもおいでおります。

小生は家族を守るため、家にはライフルなどを備えてあり、遠出の時などには大口径のピストルを忘れずにという具合です。一方、こちらでは、生活を楽しむことを忘れてはおりません。特に大自然を楽しむというのが皆大好きです。どこの州に行ってもState Parkがあちこちにあり、ピクニック、ハイキング、キャンピングを楽しめるようになっています。アメリカに生活していて、小生の言いたいことは、「何とかなる」ではなく、「何とかする」という考え方を持つことです。

ミネアポリスの近くにお出の人はお知らせ下さい。多少は手助けできると思いますが、しかし、できるだけ1人で何でもやるという心がまえを忘れてはなりません。日本人は内弁慶の傾向が強いので!!

(電気工学科22回卒) (57. 7. 26受)

# 隣の中国を訪問して

郡山市議会議員 久野清

去る57年10月22日から11月1日までの11日間、福島県市議会議長会友好訪中団（県下10市の市議会議員24名）の一員として中国を訪問して参りました。

10日間位の視察で広大な中国の実態が判る筈もありません。唯、この度訪れた5つの街（上海・南京・蘇州・天津・北京）を通して、中国の動きつつあるその流れの方向性はつかめるのではないか！そういうつもりで積極的に見聞して参りました。

訪中を通じて……全体的に感じた事は中国は日本の約26倍の面積を持ち、人口も10億人余り、民族も多種多様ですが、その中国の人々が、文革後の事態に対応し、一致団結して新しい国家体制をつくるため、模索しつつも一生懸命努力しているという事です。

新しい国家建設の過程で、解決すべき問題（例えば人口問題・食糧問題・住宅問題など）があり、また調整を図らなければならない面も見受けられますが、必ずこれらを解決して活力ある国家に成長するものと確信いたします。

中国人民と直接話しをかわし、風物にふれた事は、観念的な知識とは違い、やはり生きている中国を肌で感じたもので、私にとってみのりの多いものだったと考えております。得たものは、今後の議会活動に、政治活動に生かすつもりです。

尚、現代中国の理解のために次にまとめました。

**多民族国家** 中国は多民族国家で、人口は10億を超すが、そのうちの94%を漢族が占めており、その他は50余りの少数民族からなっている。新中国は民族の平等をとねえ、各民族の風俗や習慣を尊重しているため、各民族は、その固有の言語と文字を使用する権利を与えられているとともに、少数民族が集中して住んでいるところには自治が許されている。宗教は信じる自由と、信じない自由がある。しかし、これらの地域も中華人民共和国の不可分の一部であり、人民代表大会が設置され、人民委員会が選出されている。

**四つの現代化** 4人組を排除したのちの新憲法は新たな時期の総任務を定めた。それは「プロレタリア階級の独裁のもとにおける継続革命を堅持し、階級闘争、生産闘争、科学実験の三大革命運動をくりひろげ、今世紀中に農業・工業・国防・科学技術の現代化した偉大な社会主義強国を建設する」というものです。

**民衆の生活** 農業を基礎とし工業を導き手とする経済建設の方式が確立しているため、国民は、ほとんど職につき安定した生活を営んでいる。工場で働いている労働者は、1級から8級に分れた賃金をもらっている。この等級は労働者が自ら評価し申告したものを基準に



上海大学の学生と共に。右から3人が筆者

大衆が、その人の経験・技術・政治的な態度その他を考慮し、大衆討議を経て執行部が決定する。平均60元から70元（1元は日本の約140円）位の賃金をとっているが、個人所得税は全くなく、食費は1ヶ月12元から17元もあれば足りる。定年は男60才、女50才で、定年後は、定年前の賃金の5割から7割が、一生支給される。民衆の生活に直接関係のある重要な物質を政府が確保するとともに、計画経済を円滑に発展させるというねらいから食糧・綿布・食用油が切符制になっている。

**教育** 小学校は5年制で、中学校は初級中学3年、高級中学（日本の高校）2年となっている。大学は3年、4年、5年ものがある。授業は無駄を省き、生徒や学生の自発性を重んじると共に、その周囲にある実際のものと結びつけて学習する事により、知識をより正確に身につけさせるよう工夫されている。また、科学技術の振興にも、力が注がれはじめている。実際、学校付属の工場をもち、生徒や学生は、そこで労働し、ものを作る喜びを味わうと共に知識をより正確に把握してゆくのである。

**少年宮** 宮といつても建物自体が参觀の対象ではなく7～13才までの少年少女が、正規の学校での授業で行なう、一種の課外活動の場所である。毎日放課後500～1000名の少女少年が参加する。基本的には、体・徳・智育のいざれをも成長させ、社会主义建設に役立つ人材を育てあげることにある。ここに参加するには、区内の小学校の推せんをうけなければならない。訓練部門としては、文化・芸術・（美術・民俗音楽・合唱・器楽など）・科学（模型・トランジスター組立て・手芸など）があり各部に才能のある児童が選ばれてくる。専任の指導者のほかに、解放軍兵士・退職労働者・技術者の話も隨時行なわれている。上海市内に11の少年宮がある。

（本会評議員、建築学科24回卒）

昭和58年3月1日

日本大学工学部校友会会长 武田仁幸

## 昭和58年度総会・懇親会通知

校友の皆様には、各職域において益々御健闘のこととお慶び申し上げます。

さて本会会則第28条により、日本大学工学部校友会昭和58年度総会を下記により開催いたしますので、先輩、後輩お誘いあわせの上多数御出席くださるよう御案内申し上げます。

記

1. 日時 昭和58年4月23日(土) 午後2時～午後5時
2. 場所 日本大学会館(東京都千代田区九段南4-8-24) TEL 03-262-2271 国電・地下鉄、市ヶ谷駅前
3. 総会 (議題 昭和57年度会務及び決算報告、昭和58年度事業計画及び予算(案)審議、その他)、懇親会
4. 会費 7,000円

参加者の人数を把握するため参加希望者は予約をして下さい。現金書留で7,000円を校友会に郵送するか郵便局から「振替口座番号郡山5-1990」の日本大学工学部校友会に振込んで下さい。どの方法でも自分の会員番号(宛名の左下に印刷されている数字)、氏名、連絡先を明記して下さい。〆切は3月25日です。

## 5. その他

- (1) 諸般の事情により、本号に掲載の上記案内によって総会通知といたしますのでご了承ねがいます。
- (2) 日大会館には駐車場はありません。
- (3) 懇親会には恩師の先生の参加を予定しています。

### 卒業後の各種証明書の申込みについて

#### 工学部教務課

卒業後の教務課における各種証明書の申込みは、下記の方法でお願いいたします。

## ◇申込み方法

証明書のお申込みは、郵便又は窓口に直接おいでになって下さい。

(電話でのお申込みは受けません)

郵便でお申込みの際は、証明書手数料・返信用郵送料(いずれも切手可)を同封のうえ、学科・氏名・本籍・生年月日・入学年月日・卒業年月日・現住所等を明記して下さい。

## ◇教務課で発行する証明書

種類	手数料(1通)
○成績証明書	200円

#### [事務局便り]

○58年度の総会・懇親会は、昭和45年以来13年ぶりに東京で開催します。新装成った日大会館が会場ですので、多数参加されることを希望します。

○工学部校友会員名簿(22,156名)を57年10月に発行しました。残部が少しありますので、希望者には1部2,500円(郵送がいる場合は2,000円)で配布しています。至急申し込んで下さい。

○名簿の登録事項に変更が生じましたら、直ちに事務局へ連絡して下さい。電算機に入れ替えて、最近の情報を入れておくことにしています。

○北桜祭(工学部祭)は58年10月21～23日に決りそうです。従って「母校を訪ねる会」は10月23日になり

○卒業証明書	200円
○修得学科証明書 (電気主任技術者免状申請書等)	200円
○履修証明書(学科履修)	100円
○英文成績証明書(オリジナル)	600円
○　　〃(コピー)	200円
○英文卒業証明書(オリジナル)	600円
○　　〃(コピー)	200円
(注)英文証明書を2通以上申込む場合、1通分	
はオリジナルの料金になり、他の分はコピーの料金になる。	
例) 英文成績証明書を3通申込んだ場合	
オリジナル(1通) 600円	
コピー(2通) 400円	
計 1,000円	

なお、卒業後の健康診断書の発行は致しません。

ます。8～10回の卒業生を対象としますが、それ以外の方も参加されて結構です。

○校友会の振替口座番号が郡山5-1990に変更されました。

#### 校友会報第41号

発行所	日本大学工学部校友会 福島県郡山市田村町徳定字中河原1 郵便番号 979-66 電話番号 郡山(0249)44-1327 振替口座番号 郡山5-1990
発行日	昭和58年3月1日
発行者代表	会長 武田仁幸
編集者代表	事務局長 佐藤光正